



学校通信

夕陽丘

第 32 号



【校長挨拶】

ケセラセラ

校長 杉山友重



第 65 期生の皆さん、卒業おめでとうございます。

夕陽丘高校の 3 年間はどうか。よいことばかりでなく、苦しんだこと、悩んだこともたくさんあったことと思います。それらを乗り越えての卒業です。全てのものを夕陽丘の宝物としていつまでも大切にしてほしいと願っています。

さて、私は卒業式の式辞の最後に、毎回「ケセラセラ、なるようになるさ」をメッセージとして卒業生の皆さんに贈っています。

来年度以降卒業を迎える 1、2 年生にも知っておいてほしいので、「ケセラセラ」について説明します。

「ケセラセラ」は、イギリスの有名なサスペンス映画の巨匠であるアルフレッド・ヒッチコック監督の作品「知りすぎていた男 (THE MAN WHO KNEW TOO MUCH)」(1956 年) の中で出演者のドリス・デイが歌った有名な曲で、日本語詩でペギー葉山さんが歌って大ヒットしました。皆さんも一度はメロディーを耳にしたことがあると思います。

「私がまだ幼かった頃、母に聞いたの。『私大きくなったら何になるの？ 美人になる？ お金持ちになる？』」

「母は私にこう答えたわ。『ケセラセラ、なるようになるわ。先のことなんて分からないもの。だから、ケセラセラ、なるようになるわよ。』」

「私がまだ学校に通う子どもだった頃、先生にたずねたの。『私は何をめざせばいいですか？ 絵を描くべきですか？ 歌を歌うべきですか？』」

「彼女の賢い返答はこうだった。『ケセラセラ、何にでもなれます。未来は分からないもの。だから、ケセラセラ、あなたがなりたいものになれます。』」

「そして今、私は自分の子を持ち、子供たちは聞いてきます。『ママ、僕は大きくなったら何になるの？ かっこよくなるの？ お金持ちになる？』」

「だから私はやさしくこう教えてあげます。『ケセラセラ、どんなものにもなれるわよ。先のことなんて分からないもの。だから、ケセラセラ、どんなものにもなれるわよ。』」

(日本語訳東エミ 一部抜粋)

素敵な歌詞ですね。肩の力を抜いて、自分の可能性を信じて、未来を見つめてください。

発行 〒543-0035 大阪市天王寺区北山町 10-10 大阪府立夕陽丘高等学校

TEL 06-6771-0665 FAX 06-6771-6267 E-mail: z-yuhigaoka@sbox.osaka-c.ed.jp

ホームページ <http://www.osaka-c.ed.jp/yuhigaoka> (題字 森 敏行先生)

【 第三学年】

千里同風

第3学年主任 草間 義彦

65期のみなさん、卒業おめでとう。3年前の2月、65期生の担任団が発足し、君達を迎える為のさまざまな準備が始まりました。3年間の取り組みの柱となる学年のキャッチフレーズを色々と考え、「風かんじる65期」と決めたのも昨日のようです。

緊張した面持ちの入学式。入学後すぐに行ったスプリングキャンプでは、「せっかく琵琶湖に行ったのに」との声もありましたが、「みんなで協力する大切さを学んだ」との声も多く聞けました。1年の体育祭では、大看板作りやクラス全員リレー、みんなの一所懸命に疾走する姿が印象的でした。課題曲「心の瞳」と自由曲、レベルの高い歌声に感動した合唱大会。雪のちらつく京都での耐寒行事、土産を買うのに夢中で遅刻した人、担任の先生方を寒い中、待たせた事覚えていますか。書き出せば、溢れるように様々な思い出が出てきます。君達にとっても充実した3年間になったでしょうか。

クラス行事においては、どのクラスも良いものを目指す中で、ぶつかったり、きつくなったり、いやになったり、その道のりは、平坦なものではなかったと思います。それぞれの思いの温度差は多少あったにせよ、やり終えた後の達成感や満足感は、君達を大きく成長させてくれたはずで。また、65期生は、天候にも恵まれました。入学式は、桜満開の青空。琵琶湖でのスプリングキャンプは、初日の夜は雨が降っていましたが、翌日は、青々とした芝生の上で校歌コンクールができました。そして、2年生の遠足、同じ日、神戸は雨が降っていましたが、橋を渡った淡路島は晴天。3年の文化祭、天気予報は雨、野外テントをブルーシートで覆い、雨対策をしたけど、結局雨は降りませんでした。これからの人生いろんな意味で、曇りだったり、雨が降ったりと「晴れ」が続くわけではありませんが、ここ一番、最後は晴れる（「成功する」）、そう信じて進んで行って下さい。しかし、何もしなくて待っているだけでは、晴れません。求める結果は、かけた時間、かけた思いに比例します。誠心誠意とりくむことが大切です。君達のこれからの人生においても、その節目において晴れることを祈っています。

最後に、表題の「千里同風」は、「遠くに離れていても、そこには同じ風がふいている」という意味の禅語です。卒業後、それぞれ違う道を歩いていく君達。上手いかず、思い悩む事もあると思います。そんな時、同じ場所にいなくても、見渡す空はどこまでも続き、はるか遠くの空の下に、同じ風をかんじる友がいることを忘れないで下さい。心のふるさと「夕陽丘」から吹く風をかんじて、「夕陽の心」をいつまでも心に留めておいて下さい。



【第二学年】

やりきる

第2学年主任 岩元 健

夕陽丘での生活も早2年が過ぎ、いよいよ最終学年を迎えようとしています。これまでの高校生活はどうでしたか。勉強はもちろん、部活や体育祭・文化祭などの行事、そして、グアム修学旅行と、いい経験を積み成長したことと思います。そのグアムで先日悲惨な殺傷事件がありました。あるいは、ロシアで隕石落下による被害もありました。このように、誰がいつどこで、何に巻き込まれるか分かりません。だからこそ、その時、その時をどう生きるか、生きていくかが大切になります。

話は変わりますが、皆さんは、山本常朝の『葉隠』という本を知っていますか。この記述の中に「武士道と云ふは死ぬ事と見附けたり」という有名な一節があります。きつい表現で、‘死’という語から、葉隠全体を理解せずにこの部分だけを取り出して、軍国主義に利用され、戦後は一時禁書扱いにもなりましたが、本来は、嫌な上司からの酒の誘いを丁寧に断る方法や、部下の失敗を上手くフォローする方法、人前であくびをしないようにする方法等、現代でいうところのビジネスマナー、処世術や礼法を説いたものです。その有名な一節ですが、要は“覚悟を決めて進む”ということだと思えます。人生は、選択の連続と言えますが、常に厳しいほうを選択していきなさいと説いています。他に「只今がその時」「その時が只今」とあります。つまり、いざという時と平常とは同じでことであり、緊張する場面こそ、平常心で対処する。また、何事もない日常的な時間こそ非常の際の覚悟で物事に集中することが大切であると言っています。宮本武蔵も同じようなことを『五輪書』で述べています。興味ある人は読んでみて下さい。たぶん図書室にあったと思います。

さあ、これからの毎日、毎日を自身の進路、夢・目標に向かってしっかりと努力しなさい。そして、高校生活最後の体育祭・文化祭をはじめとする様々な行事にこれまで以上に積極的に取り組みなさい。何事も最後まであきらめずにやりきることが大事です。日々の生活を大切に、悔いを残さないように、すべきことをしっかりとやりきる。

これが、皆さんの課題です。「ならぬといふは、成し様
足らざる故なり」（出来ないのは、自分の努力が足りない
からだ）

躍動しよう！66期生。



【第一学年】

この一年、貴方はどのように成長したでしょう？

第1年学年主任 諸正 邦彦

3月1日に65期生は卒業式を迎えます。67期のみなさんはあと2年です。ところで、昨年4月に入学した67期生は卒業まであと2年、昨年4月のときに誰が3年後の卒業のことを思ったでしょうか。

今この時点で振り返ると「光陰矢のごとし」だと思います。ところでこの1年、「私」はどのように過ごし、どう成長したか。自問自答してみてください。時間は誰にでも平等に与えられている最高の賜物です。「一寸の光陰軽んずべからず」の言葉があります。平等に与えられているこの時間を如何に用いるかは、貴方の自由意志です。自由意志であるが故にその使い方には、人それぞれです。学年ではこの1年間を通して1週間ごとに家庭学習記録帳をみなさんに課してきました。今ここで振り返ると毎週、提出した人もいれば出さない人もいました。出さない人が家庭学習時間が皆無とは言わないまでも、毎週提出し自己検証している人とそうでない人では、学習意欲、学習姿勢に少なからぬ違いが生じているのもまた事実です。ここで言いたいのは、自らの成長をどのように検証するのか？です。ところで、私たちはなぜ学校に行くのでしょうか？

無目的に行動する人はいないはずですが、「行く」という行為はそこに行きたい、行かねばならないという意志が働きます。では、何のために行くのか？何しに行くのか？ここに各人の目的意識に沿った行為が様々な「場」で行われます。意志と決定、行為の主体者は「私」です。その意味において、「私」は自由の主体としての人格者であるのです。その「私」が自らの自由な意志決定者として学校に通って来るのです。

では私たちは何しに学校へ行くのでしょうか？「自覚する、しない」に関わらず、それは自らの「心・技・体」への滋養とそれらの成長を願い、文化の継承者と真理の探求者にならんためです。何か大きなように聞こえるかも知れませんが、「学ぶ」ということは「人が人になり人として成長生きること」なのです。ドイツの哲学者カントの言葉に「汝の人格や他のあらゆる人の人格の内にある人間性を、いつも同時に目的として扱い、決して単に手段としてのみ扱わないように行為せよ」という定言命令があります。私たちは夕陽丘という「学び」の場に集う学友です。夕陽丘に集う私たちは、自由の主体としての人格ある人間として成長し、多くの学びを通して「善いことをなそうとする善意志」を育もうと努力しているのです。夕陽丘でのあと2年の「学び」を通して「単に生きるのではなく、善く生きる」を目指す精神を堅持できる「人」として成長して欲しいと願っています。

「やる気、元気、根気」の「三つの気」で各人の目標に向かって惜しみない努力を重ねていって下さい。そして、私たちは間柄存在であるということを実感し、誠実で真摯な「主体的意志決定が出来る人」を目指して欲しいと願っています。これからの2年間、みなさんの内なるつぼみが殻を破り華ひらき光輝く成長されることを期待し願っています。

いつものように「日常六心」です。

- 「はい」という素直な心
- 「私がします」という奉仕の心
- 「有難う」という感謝の心
- 「すみません」という反省の心
- 「おかげさま」という謙虚な心
- 「他者」を受け入れ認める慈愛の心



注：文中「自由な意志決定者の私」「自由の主体」は「恣意的行為の存在者」という意味ではありません。

【保健部】

1. 身体計測結果

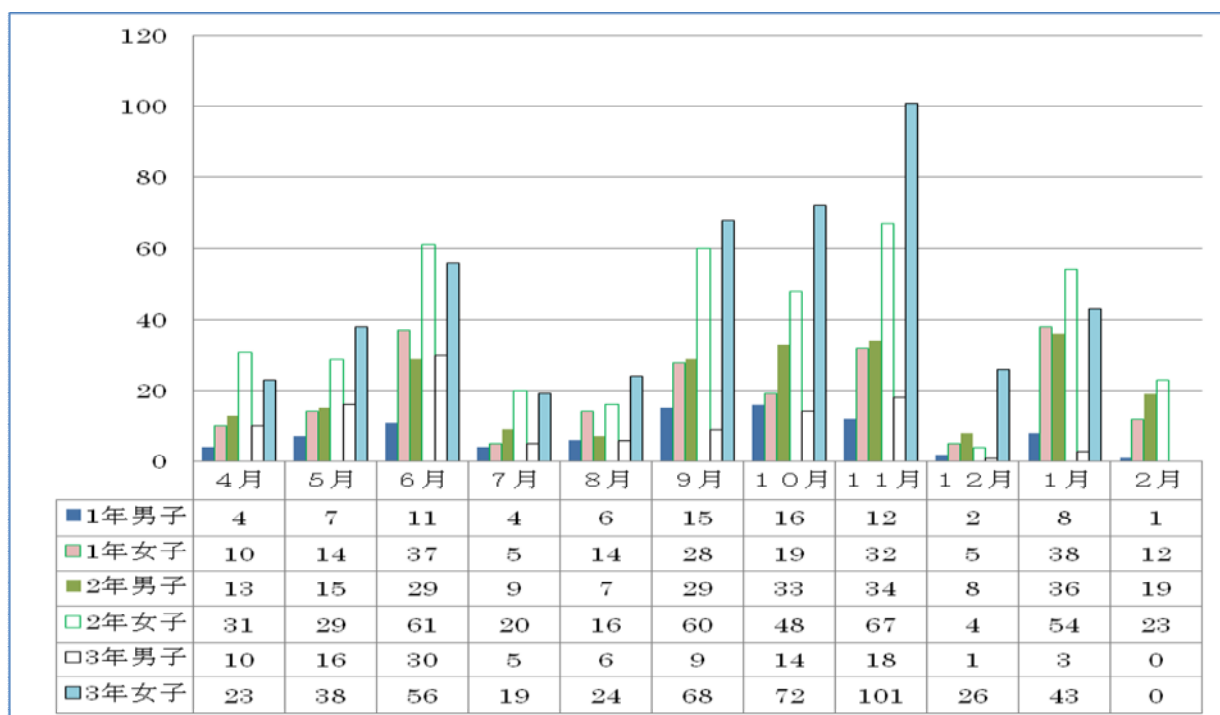
項目	学年	本校男子	大阪男子	全国男子	本校女子	大阪女子	全国女子
身長	1年	169.5	168.4	168.3	157.1	157.1	157.1
	2年	170.2	170.1	169.9	158	157.9	157.6
	3年	170.2	171.1	170.7	158	158.4	158
体重	1年	58	58.9	59.4	49.2	51.6	51.4
	2年	60.7	61.4	61.3	50	52.7	52.4
	3年	60.7	63.4	63.1	51	53.4	52.8
座高	1年	90.4	90.5	90.3	84.9	85.4	85.4
	2年	91.5	91.5	91.3	85.5	85.8	85.6
	3年	91.5	92	91.9	85.5	86	85.8

本校生徒の体格の特徴には、全般的に身長・座高は全国平均とほぼ同じであるが、体重は全学年男女ともに軽い傾向があり、昨年同様のやせ形の体型が見られる。

1年生男子の身長は、全国平均を1.2cm上回っているが、座高は全国平均と殆ど同じであることから、下肢長は長い、体躯の小さい体型が考えられる。座高は臓器を頑丈に覆う体躯の発育を表している。また、体重は全国平均よりも1.5kgも軽い。現代の若者に多く見られるslenderな体型が見られる。この傾向の背景には、食生活や運動、生活様式等があげられる。高校生段階は、発育曲線の最終部分として重要な時期である。個々の健康な発育のために、部活動や学校行事等を通して、体格及び体力の向上を目指してほしい。

2. 保健室利用状況<内科的>

月・学年別来室状況；総数 1527 件



【進路指導部】

◇ 行事報告 ◇

1年「進路講演」

11月1日（木）ヴィオーラホールで進路講演会を実施しました。講師は昨年も来ていただいた佛教大学教育学部教授の原清治先生で、高校1年生がこの時期に心得ておくべき様々なことを多彩な表現でわかりやすく語って頂きました。

多くの生徒は時間いっぱい集中して話を聴き、全体としては有意義な講演会でした。

1年「進路体験セミナー」

11月8日（木）、HRの時間を使って、勤労観・職業観を育成することを目的に「進路体験セミナー」を実施しました。実際の進学先である大学の視点から、その学部で学んだ人がその後どのような職業につき、どのような形で社会人として活躍しているのかをテーマに、各大学の方から話をいただきました。

講師の先生方には、その職業の詳しい説明をしていただくとともに、ご自分の大学時代のこと、なぜその道に入ったか、入ってからの苦労や努力されていること、やりがいを感じていることなどを話していただきました。

2年「進路講演」

11月29日（木）「大学入試の現状と今後の学習」というテーマで元河合塾の鞍下先生にお話ししていただきました。大学の中退者7万人以上。実質就職率60%など、厳しい大学を巡る状況の話や、高校3年になるまでが大事、等等、実質的な話に対し、生徒達も真剣に聞き入っていました。

2年「卒業生を囲む会」

66期2年生に、文、外国語など9分野に計21名の卒業生（殆どの方が2歳年上の64期生です）をお招きして、今の大学生活や、今どんな勉強をしているか、高校のときにどんな準備をしたか、進路選択をどうして決めたかなど様々なお話をして頂きました。各分野には、希望によって14名から54名まで生徒が別れて聴かせてもらう分科会形式です。

できるだけ親近感を持ってもらおうと、生徒が司会をする形式ですすめました。最初はお互い緊張して本音の話を引き出せませんでした。しかし、時間がたつにつれて卒業生の本音の話がでて、生徒は様々な質問をして、真剣に聴き入っていました。



普段、進学後の生活などを聞けるのは、大学のオープンキャンパスに行つて大学の人からです。それもいいのですが、視点は大学を卒業した人の視点ですし、多少の宣伝も混ざっていることを考慮しないといけないかも知れません。しかし、実際に大学に行っている2歳年上の先輩の話は、それらとはひと味違う皮膚感のあるお話でした。

快く参加していただきました卒業生に感謝申し上げます。

【音楽科】 ♪ 主な音楽科行事報告 ♪

・ 1月10日（木）

特別公開講座「ドビュッシーとの散歩～書くことと弾くことをめぐって～」

講師に青柳いづみこ氏（ピアニスト・文筆家・大阪音楽大学教授）をお迎えし、ドビュッシーのピアノ作品の解釈等について、演奏を交えながらお話しいただきました。文筆家でもある氏の深い造詣に基づいた興味深い内容で、お馴染みの作品についても新たな発見が得られたのではないのでしょうか。



・ 2月2日（土）

第152回ピッコロコンチェルティスタ（学内演奏会）

ピッコロ50周年の今年度最後を飾る学内演奏会。普通科生徒によるピアノ独奏、サクソフォーン四重奏を含め、全部で40組の生徒が出演しました。音楽を勉強している人でまだ出演経験のない人は、ぜひ次回の出演を考えてみてください。お待ちしております。

・ 2月9日（土）

音楽科3年生演奏会

出演した皆さんそれぞれが、3年間の成長を感じさせる表現で、感性溢れる演奏を聴かせてくれました。夕陽での経験を糧に、皆さんの今後のさらなる活躍を祈っています。

・ 2月14日（木）

海を越えたコンサート（ハワイ・プナホウ高校テレビ会議）



ハワイの高校生が作った日本語の歌詞に、音楽科2年生が作曲し、インターネットを通して和楽器で演奏を披露する企画も、今年度で8年目を迎えました。この日演奏された5曲のうち1曲が卒業ソングに選ばれ、プナホウ高校の卒業式で歌われる予定です。国際交流の取り組みの一環として、今後もこの企画が継続、発展することを願っています。

【国際交流】

昨年度末の「国際交流新聞」で今年度の取り組みを報告させていただきましたので、今回はその後の交流活動の報告をします。韓国からの男子生徒二人がそれぞれ1/15～2/1と1/28～2/22まで2年生のクラスで勉強しました。一人は合唱コンクールに参加しました。受け入れクラスの生徒と練習を重ね、クラスの一員として共にステージに上がり、一所懸命に歌う姿が印象的でした。交流をとおしてクラスの生徒にも良い刺激と影響を与えて帰国しました。詳細は「国際交流新聞」第2号をご覧ください。

次年度も国際交流委員を中心にさまざまな形での国際交流活動を進めていきたいと思っております。新たな形で外国の文化と触れ合う機会を提供することも検討中です。今後とも保護者の皆さまのご理解ご支援と生徒ひとりひとりのみなさんのご協力をお願いいたします。

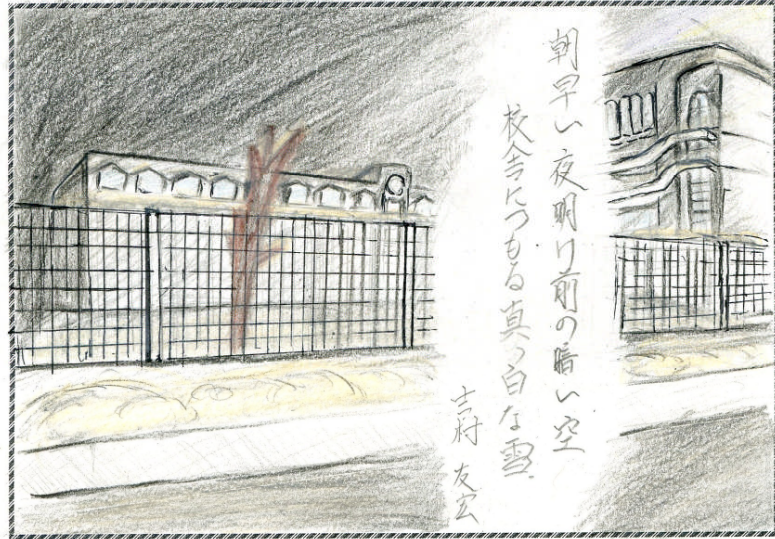
3年生のみなさんご卒業おめでとうございます。これからは夕陽丘高校から「学び」の場を変え、人との出会いを通して「学び」続け、さらなるご活躍をされることを祈念いたします。



【前田純孝賞決定】

本校初代教頭前田純孝先生を記念した短歌賞に今年もたくさんの生徒が入選しました。

右の作品が神戸新聞社賞に輝いた1年の吉村友宏君の作品です。作品は兵庫県新温泉町にある浜坂先人記念館に掲示されています。近くに行かれたら一度ご覧ください。



1年 須川咲さん

大林可歩さん

「 朝早い夜明け前の暗い空校舎につもる真っ白な雪 」

奈良あずささん、池内光流さん

2年 松原佳代子さん、中道舞さんが入選されました。

【当面の予定】

3月 1日 (金) 第65回卒業式 3月 4日 (月) テスト返却日

3月 15日 (金) 平成24年度終業式

〈 入試関連 〉 登校禁止 3月 11日 (月) 12日 (火)

立入禁止 3月 8日 (金)

) 13時～

校舎内立ち入り禁止 3月 9日 (土) 10日 (日)

3月 13日 (水) ～18日 (月) 10時まで

3月 14日 (木) 教科書販売 (新2年 11:00～13:00・新3年 9:30～11:00)

4月 1日 (月) クラス発表 4月 8日 (月) 始業式 入学式

【編集後記】

「 行く春や鳥啼き魚の目は泪 」 芭蕉

皆さんは、古典の時間に学習したので意味はよく分かっていると思いますが、この句は、『奥の細道』の旅に出かけて行く芭蕉を千住で人々が見送った時別れを惜しんで松尾芭蕉が詠んだ句です。

芭蕉は人生を旅にたとえていますし、また、当時の旅は死をも覚悟するものであったでしょう。

しかし、現代の皆さんの旅は楽しいことのパレードであるかもしれません。

ただし、現代社会は先行き不安な日々です。苦難があった時、若さは何ものにも代え難いエネルギーを持っています。

その自身力で運命を切り開き、65期卒業生の皆さんが、笑顔で前を見て日々を送られることを祈っています。

